

ハンドサッカー～それぞれのシュート～

教科・場面

運動

授業・実践のねらい

- ・ボールに自ら手を伸ばし、それぞれの方法で投球する。
- ・ボールに働きかけることで、転がる・音が鳴る・映像が流れるなどの因果関係に気付く。

対象の児童・生徒

- ・高等部 A2 グループ

教材・教具

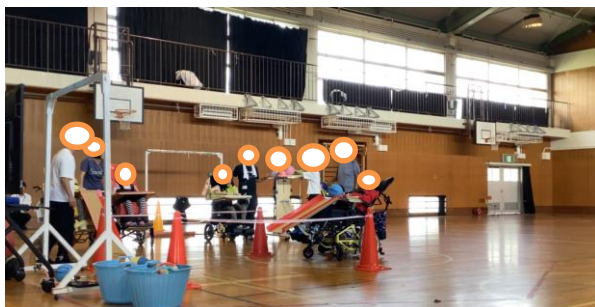
大きい小さい・硬いやわらかいさまざまなボール
スロープ、ゴール、ipad、テレビ

工夫したところ

それぞれに合ったスロープを用意した。
ゴールが入ったら、好きな音楽や好きな映像流れるようにした。

授業展開・教材の使い方・実践の内容など

- ・それぞれの好きなボール、それぞれに合った投球方法を見つける時間を設け、多くボールに触れて慣れ親しんだ。2つのグループに分かれて、練習時間をしっかりと確保した。
- ・ボールに触れる・押す・転がすなどの単純でわかりやすい働きかけを通して、ボールが動くと音が鳴るや映像が流れるといった変化が起きる経験を積み重ねた。この経験を繰り返す中で、「自分が動くことで結果が生じる」という因果関係に気付き、「楽しい」や「もう一度」やりたいなど、自ら行動しようとする力へと発展させていきたい。(日常生活で「欲しいものに手を伸ばす」など)



授業・実践を通じた児童生徒の変容

活動を繰り返す中で、ボールに働きかけようとする主体的な姿が多く見られるようになった。「自分の動きによって結果が生じる」ことへの理解には個人差があるものの、「ボールが転がった」「できた」という肯定的な言葉かけを行うことで、笑顔が見られ、活動に意欲的に取り組む姿が見られた。